

地域福祉論			科目コード	CA3105
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	2年以上	都築 光一	



※会場によりスクーリングを別教員（柴田邦昭先生）が担当いたします。

科目の概要

■科目の内容

わが国の社会福祉は、大きな転換期にあります。特に、社会福祉基礎構造改革をはじめ、地方分権の推進や規制緩和による福祉サービス供給体制多角化などの状況の中で、地域福祉の推進のあり方が問われてきています。

21世紀の社会福祉は「地域福祉」にあるといわれており、これからの社会福祉の目標や方法は、新たな視点を十分意識し、地域社会を基盤に考えていかなければなりません。理論および社会的な背景や歴史的考察、また海外比較などを通してできるだけ多角的に地域福祉を理解するとともに、あわせて各地で展開されている地域福祉実践からも学びを深めていく必要があります。その上で、いま地域福祉の何が問題になっているのかを考察しながら、地域住民や最前線で活躍しているソーシャルワーカーをはじめとする実践者の取り組みなどを通じて具体的に学んでいきます。

この科目では『地域福祉の理論と実際』というテキストを使用します。テキストでは、地域福祉の基本的な考え方、理論、地域福祉の推進を図る実践方法についての理解などの内容となっております。地域社会とそこで生活する地域住民の理解には、幅広い知識も必要です。社会福祉士受験科目の他の指定科目とあわせて学習してください。資格取得を目指す人はもとより、そうでない人も社会福祉に関する基本的な知識に関する科目として貪欲に学んでいただきたいと思います。

【教員等の実務経験による指導内容】

役場職員、社会福祉協議会理事などの実務経験を生かし、地域住民による福祉コミュニティの形成、それに向けた支援活動と地域福祉の展開技法および社会資源の活用方法等について、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉の必要性をふまえ、理念および基本的な理論を説明することができる。
- 2) 地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。
- 3) 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。

■教科書

都築光一著『福祉ライブラリ 地域福祉の理論と実際 第2版』建帛社、2018年（第2版でなくても可）
（最近の教科書変更時期） 2018年4月

（スクーリング時の教科書）

【各会場共通】 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- 1) 岡村重夫著『地域福祉論（社会福祉選書）』光生館、1978年
- 2) 真田是著『地域福祉と社会福祉協議会』かもがわ出版、1997年
- 3) R. ハドレイほか 小田兼三・清水隆則監訳『コミュニティ・ソーシャルワーク』川島書店、1997年
- 4) 野口定久著『地域福祉論』ミネルヴァ書房、2008年
- 5) 右田紀久恵著『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房、2005年
- 6) 大橋謙策・宮城孝編『社会福祉構造改革と地域福祉の実践』東洋堂企画出版、1998年
- 7) 岡崎祐司・河合克義・藤松素子編『講座・21世紀の社会福祉 5 現代地域福祉の課題と展望』かもがわ出版、2002年
- 8) 栃本一三郎編著『地域福祉を拓く第1巻 地域福祉の広がり』ぎょうせい、2002年
- 9) 小林雅彦・村田幸子編著『地域福祉を拓く第2巻 住民参加型の福祉活動』ぎょうせい、2002年
- 10) 和田敏明編著『地域福祉を拓く第3巻 地域福祉の担い手』ぎょうせい、2002年
- 11) 大森彌編著『地域福祉を拓く第4巻 地域福祉と自治体行政』ぎょうせい、2002年
- 12) 小笠原浩一・島津望著『地域医療・介護のネットワーク構想』千倉書房、2007年
- 13) 都築光一編著『新しい地域福祉推進の理論と実際』中央法規出版、2007年
- 14) 金子郁容著『ボランティア もうひとつの情報社会』岩波書店、1992年

スクーリング

※スクーリングを受講する際には、必ずテキストを読み受講してください。

▶仙台・オンデマンド開講分 都築 光一

■スクーリングで学んでほしいこと

国民の個人の尊厳に立脚した社会福祉に関する構造の構築と併せて、福祉サービスを必要とする地域住民の自立生活を支える地域福祉の推進は、今後の社会福祉の基調を示すものとなっている。福祉コミュニティを目指す実践を理論構築していく地域福祉論は、複雑な今日の地域社会の諸問題に向き合いながら、住民主体の諸活動を支援していく専門職の役割を理解するとともに、次の点を学びとってください。

- (1) 地域福祉の歴史と理念をしっかりと学んでください。
- (2) 地域福祉推進の実践手法について理解しましょう。
- (3) 地域福祉において実践する際の人的社会的資源と、その活用法を理解しましょう。

- (4) 地域福祉における住民参加の意義と、住民主体の原則について、理解しましょう。
- (5) 地域トータルケアシステムや、ソーシャルサポートネットワークに関する理解を深めましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域福祉の概念と理念	地域福祉の基本的な考え方と理念
2	地域福祉の原理と実践	地域福祉の原理として、住民主体、地域性、人的社会的資源のシステム形成の原理について、主体と対象、資源、固有の展開手法にもとづく実践について学ぶ。
3	外国における地域福祉のあゆみ	地域福祉の先行事例（デンマーク（理念）、イギリス（制度）、アメリカ（ソーシャルワーク））について学ぶ。
4	日本における地域福祉のあゆみ	日本型福祉社会の形成と、地域福祉の形成過程を理解する。
5	今日における地域福祉の課題	現代日本の地域福祉の課題を理解する。
6	社会福祉協議会	社会福祉協議会の役割・組織・機能
7	各種福祉関係団体等	民生委員・地域福祉関係団体・ボランティア・NPO 組織・行政機関等
8	住民による地域福祉活動	地域福祉活動計画・地域福祉活動プログラム等
9	専門機関による地域福祉の取り組み	ニーズ把握と社会資源・地域トータルケアシステムの実際
10	福祉教育	地域住民の福祉理解と福祉教育の意義
11	福祉サービスの提供と評価	福祉サービスの評価・第三者評価等の方法
12	まとめ地域福祉論のまとめ	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

テキストおよび配付資料をもとに板書しながら進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%） 試験は記述問題とし持込可。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

まちづくりの主体は地域住民であるという原則から、地域福祉は地域の課題解決に向けた地域による取り組みが基本です。そのための基本的な考え方を、予習してきてください（特に教科書の第1章と第4章）。

講義は、具体的かつ実践的な内容で行いますので、とりわけ実務経験を有していない方にとっては、事例なども読んでおいた方が望ましいです。

▶盛岡開講分 柴田 邦昭

■スクーリングで学んでほしいこと

高齢者・障がい者・子どもに関する福祉制度は、今、地域を基盤に進められている。「地域福祉の推進」はいわゆる社会福祉の基調を示すものとなっている。地域福祉論は地域の実践を理論構築していく学問であり、日常生活から見えてくる課題、福祉サービスを必要としている人を住民主体の地域活動でどう支えていくのか、また、制度の狭間の問題に対して地域福祉活動を進める専門職の役割等について、次の点について学んでほしい。

- (1) 地域福祉の歴史と理念をしっかりと学んでください。
- (2) 地域において実践する際の人的資源と、その活用法について理解しましょう。
- (3) 地域福祉における住民参加の意義と、住民主体の原則について、理解しましょう。
- (4) 地域トータルケアシステムや、コミュニティソーシャルワーカーに関して理解しましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域福祉とは何か	地域福祉とは何か・日本の地域福祉の歴史
2	地域福祉のあゆみ	欧米における地域福祉の歴史・今日における地域福祉の課題
3	地域福祉の展開における役割と実際①	地域福祉の役割と実際・社会福祉協議会
4	地域福祉の展開における役割と実際②	民生委員・児童委員・各種福祉団体
5	地域福祉の展開における役割と実際③	ボランティア・NPO 団体等
6	住民による地域福祉活動①	地域福祉計画・地域福祉活動計画等
7	住民による地域福祉活動②	地域福祉活動プログラム・住民による地域福祉活動の課題
8	地域福祉活動実践	グループワークによる個別事例の検討
9	専門機関による地域福祉の取り組み①	専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉・ニーズ把握と社会資源
10	専門機関による地域福祉の取り組み②	福祉教育・福祉サービスの評価
11	地域福祉の財源	地域福祉の財政制度・社会福祉協議会の財源
12	これからの地域福祉に向けて	統計指標・東日本大震災・生活支援戦略
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書を中心に講義を進めます。地域福祉実践をより具体的に理解いただくため、DVDの使用およびグループワークを一部取り入れます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70%（持込可）

試験は記述式とし、特に到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の「はしがき」および教科書の事例1～7を読んで、この事例がどのような視点で進められているかを理解してください。

レポート学習
■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	1 地域福祉とは何か①地域福祉の概念	地域福祉の概念に関する考え方を学ぶ。基本的な考え方を基に、社会福祉法第4条の規定について理解を深める。地域住民、住民主体、住民の意思決定、福祉コミュニティ、ソーシャルインクルージョン等について学ぶ。	地域福祉の基本的な考え方と、その目指している社会のありかたなどについて、学説と法的根拠をもとに、しっかりと把握しましょう。
2	②地域福祉の理念 ③地域福祉の原理と実践	地域福祉の理念について、理論研究の歴史的経緯の中から学ぶ。岡村重夫による福祉コミュニティの考え方と、右田による自治型地域福祉論による住民自治の考え方を基本的に理解を深める。 地域福祉の原理として、住民主体、地域性、人的社会的資源のシステム形成の原理を挙げることができる。これに基づき主体と対象、資源、そして固有の展開手法にもとづき実践することを理解する。	地域福祉の考え方や目的とするところを基本に、地域福祉を推進していくうえで、ふまえるべき事項について学びます。特に地域での実践場面では、状況をしっかりと見極め、必要な配慮が欠かせません。
3	2 地域福祉のあゆみ①外国における地域福祉のあゆみ	地域福祉の先行事例として、ヨーロッパにおけるデンマーク（理念）とイギリス（制度）およびアメリカ（ソーシャルワーク）について学ぶ。	地域福祉は新しい実践上の考え方ではありませんが、諸外国では、社会福祉と同じ意味合いで用いられていることが一般的です。ここではその発展過程や考え方の歴史的経緯を学びます。
4	②日本における地域福祉のあゆみ ③今日における地域福祉の課題	日本における地域福祉の歩みについて学ぶ。封建社会から資本主義社会へ、そして戦後の取り組みへという流れの中で、日本型福祉社会の形成とともに、地域福祉の形成過程を理解する。 戦後、わが国における地域を巡る環境が大きく変化した。これに伴って、わが国では、社会システムが変化してきており、地域福祉実践上の課題が大きく浮かび上がってきている点を理解する。	わが国では地域福祉の歴史的経緯について、独特の経過をたどって今日に至っております。急速に進行する少子高齢化や都市と農村の格差などをふまえ、わが国の地域福祉の歴史と今日の課題を学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	3 地域福祉の展開における役割と実際 ①社会福祉協議会	わが国における地域福祉の推進のために、その中心的役割が期待されている社会福祉協議会について、理解を深める。とりわけ法的に規定され、その役割が明記されたこと。具体的な内容に関しては、社会福祉協議会要項に示されていること。民間福祉団体であること等、その位置づけに関する理解が地域福祉を理解するうえでは不可欠である。	地域福祉の推進のために、その中核となる役割を期待されているのが、社会福祉協議会です。ここでは社会福祉協議会の基本的な役割や法的根拠に基づく組織および機能について学びます。
6	②民生委員・児童委員 ③各種福祉関係団体	法律で規定されている民生委員の役割は、歴史的に形成されてきた点に特徴がある。その基本的性格と役割について学ぶ。 地域福祉に関する各種関係団体として、多くの関係団体がある。今日、地域で活発に活動している様々な団体や人的滋とされる専門職等について理解を深める。	地域福祉の推進にあたって、地域における人的資源や各種関係機関や団体の役割は非常に大きいものがあります。ここではそうした機関や団体及び人的資源として代表される民生委員について、その概要を学びます。
7	④ボランティア・NPO組織 ⑤行政機関	地域福祉を推進するうえで、ボランティアやNPOの存在は、年々大きくなってきている。ここではその特徴や意義について学ぶ。 地域福祉の推進については、行政機関の果たす役割が限定的となっている。法的根拠と併せて、福祉行政の位置づけについて理解する。	地域福祉推進のうえで、大きな力となるのはNPOやボランティア組織です。その成立経緯や基本的性格および期待される役割などについて学びます。
8	4 住民による地域福祉活動①地域福祉活動計画	地域福祉は、住民主体が基本であるところから、住民自身による具体的な地域福祉活動の展開が求められる。それが具体的な形となったものが、地域福祉活動計画であるので、これに関する計画策定のプロセスを理解する。またこの計画に関する具体的な事例と通じて、住民の主体性の原理について理解を深める。	地域福祉は、住民主体が基本です。そのため住民主体の地域福祉活動の考え方や、それを具体化するための地域福祉活動計画について学びます。
9	②地域福祉活動プログラム ③住民による地域福祉活動の課題	地域福祉の推進のために、具体的な支援技法として、プログラム活動について理解する。援助者としていかに地域住民に相対するのか、その立ち位置について理解を深める。 住民主体や住民自治を求めつつ活動を展開することを基本としながらも、様々な地域福祉の推進にあたっては、課題も多い。ここではその課題と解決のための考え方について学ぶ。	地域住民による地域福祉活動の展開に向け、支援活動としてどのような手法を用いるのが問われます。ここではその手法としてのプログラム活動手法と、住民による地域福祉活動の課題について学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	5 専門機関による地域福祉の取り組み ①専門機関による相談支援の実際と地域福祉	地域福祉に関しては、専門職や専門機関による様々な取り組みがある。その重要な取り組みとして、相談活動があげられる。様々な相談機関と専門職の活動に関して、その展開手法や基本的な考え方について、総合相談活動や権利擁護に関する取り組みなどに関し、事例を通じて学ぶ。	地域福祉活動が住民主体で効果的に展開できるようにするために、専門職の支援が欠かせません。ここでは福祉専門職による支援活動として、特に相談活動について学びます。
11	②ニーズ把握と社会資源 ③地域トータルケアシステムの実例	地域福祉推進のために、地域においてどのようなニーズがあるのか、その概要を把握して具体的な展開がなされることが求められている。ここではその方法に関して学ぶ。 地域で生活している住民の生活を、トータルに支援していくためには、地域内の社会資源のシステム化が必要となってくる。各種専門機関のネットワークによるトータルケアシステムについて理解する。	福祉専門職による地域福祉活動のために、具体的なニーズ把握が欠かせません。ここではニーズ把握の方法について、様々な手法等に関して学びます。それと併せて、地域トータルケアシステムについても学びます。
12	④福祉教育 ⑤福祉サービスの提供と評価	地域福祉の推進において、地域住民の福祉に関する理解や関心がどれだけ意識的になされるのかによって、大いに左右される点がある。ここでは福祉教育の意義について学ぶ。 地域福祉における様々な福祉サービスの評価に関し、特に第三者評価を軸に、その方法やあり方について理解を深める。	地域福祉推進においては、地域において社会福祉への関心や意識の高まりが求められます。ここではその具体的な手法として福祉教育を取り上げます。また様々な福祉サービスの効果を確認できるよう、評価のあり方についても学びます。
13	6 地域福祉の財源①未熟な地域福祉の財政制度	地域福祉に関しては、住民主体を基本としている点から、住民による主体的な取り組みを期待している点が大きく影響しており、様々な社会福祉制度と違って、サービス提供の予算化がなされていない。ここではそうした点をふまえ、財源のあり方に関する基本的な考え方と、地域福祉推進の考え方に関し、理解を深める。	地域福祉は、住民主体が基本です。そのため住民主体の行動が求められています。そのための財源に関して、行政では具体的にどのようなになっているのか学びます。
14	②社会福祉協議会の財源 ③共同募金その他	地域福祉推進を目的とした団体として存在する社会福祉協議会の財源を通じて、地域福祉に関する財政構造を理解する。 地域福祉推進の上で貴重な財源となっている共同募金について理解する。	行政における財源とは別に、民間団体における地域福祉の財源はどうなっているのか、共同募金も含め、その仕組みについて学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	補章 これからの地域福祉に向けて	少子高齢化が進行するこんにち、地域福祉の推進は一層重要性が高まってきている。とりわけ過疎化及び人口減少が著しい地方にあっては、その課題が深刻になっており、地域福祉活動の担い手の確保も厳しい状況に置かれている。こうした状況から今後理解が必要となる統計指標のあり方と、東日本大震災の教訓から、今後の地域福祉を展望し、地域福祉に関する学びを深める。	これまでの講義を振り返り、地域福祉の基本を確かめつつ、現在の課題と今後の地域福祉のあり方や方向について整理します。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください (Web 解答可)。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください (Web 解答可)。
3 単位め	地域福祉実践における福祉ニーズに基づいた社会資源活用法・調整・開発について述べよ。
4 単位め	<p>【説明型レポート】 下記について各500字程度で説明しなさい。</p> <p>① 「福祉教育」の目標と方法について ② 「NPO」と「ボランティア」の関係について ③ 「コミュニティソーシャルワーク」について ④ 民生委員制度について</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

本科目を学ぶにあたり、あらかじめ留意しておく事項を挙げます。

(1) 学習時間についてです。

ほとんどの方が職業を持っているということから、学習時間を確保することが難しいかと思いますが、学習目標を設定し、短時間でも良いので必ず毎日学習時間を作ることです。

(2) 社会の動き（経済活動、市民意識の動向等）を知る努力をすることです。

社会福祉の制度・政策の策定は常に市民生活や社会生活の変化に基づいて行われてきているというところから、社会の動向に高い関心を持って学習に臨んでください。

(3) レポートの作成には教科書をよく読んでください。

また、教科書などが「章」「節」などで構成されるようにレポートも論述する事柄を項目ごとに区切って作成してください。

例えば、 1 ○○○ や (1) □□□ です。

(4) 従前テキストの『地域福祉論』を使用している学生は、近年の関係法令や制度改正に関する情報を収集してください。

1・2 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

3 単位め
アドバイス

第3章、第4章、第5章を読み、福祉ニーズの内容がどこにどのように存在するのか、またその把握する方法を理解するとともに、地域福祉を実践し推進する上で活用される社会資源を理解し、それらの活用方法、調整・開発などのコミュニティソーシャルワークの実践内容を理解してください。

4 単位め
アドバイス

第3章と第5章を読み、地域福祉の推進に必要な要素として福祉教育、地域福祉計画、推進機関として期待されるNPOやボランティア、民生委員、コミュニティソーシャルワークの役割について理解してください。

科目修了試験

■評価基準

試験による評価を基本とする。なお、出題内容に関する事項を単に要約したものとは違って、本人の考察や、基本事項に関する論述がなされているものを評価の対象とする。